

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

6月前半着	1,051.00	(15.75)
6月後半着	1,046.25	(16.00)
7月前半着	1,042.75	(16.00)
7月後半着	1,040.25	(15.75)
8月前半着	1,038.00	(15.50)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月後半着	+10.50	+6.38
6月前半着	+7.50	+4.50
6月後半着	+5.13	+2.75
7月前半着	+3.81	+1.63

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	JUN
WTI	107.84
BRENT	121.74

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

〔マーケットコメント〕

週明け 18 日のナフサ C&F JAPAN は 1058.5 ドルと反発、クラックスプレッドは横ばい。前週末の欧州市場は堅調なムードが続いて確りした動きであったことから、アジア市場も底堅いムードで始まった。アジアのファンダメンタルズは引き続き期近玉を中心に逼迫した状態にあり、中東やインドからナフサのスポット販売は高値で成約されている。また、台湾のフォルモサがスポット調達に動いたことも、サポート要因となった。一方で、高値警戒感も強まっている。インドネシアのチャンドラ・アスリがマージンの悪化からクラッカーの減産に踏み切ったことに加え、フォルモサも減産するとの噂が流れた。その後、フォルモサのスポット調達レベルが予想より低かったことが判明し、市場のブルなムードは打ち消された。ブラツタイムでは、ブルベア要因が交錯し、クラックスプレッドは横ばいとなった。本日のアジア市場は売り先行が見込まれる。ブラツ後のアジア市場で纏まった売り手が見られたことや、その後の欧州市場も利食い売りに押されたことから、ベアな展開が想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.21	82.45	56,339	(9)		
11-May	1,037.17	82.70	59,615	(665)		
11-Jun	1,053.26	82.71	60,547	(1,178)		
11-2Q			58,834		60,800	(700)
11-Jul	1,049.19	82.73	60,324	(1,210)		
11-Aug	1,045.45	82.74	60,122	(1,194)		
11-Sep	1,042.57	82.76	59,969	(1,179)		
11-3Q			60,138		62,100	(1,200)
11-Oct	1,040.38	82.79	59,860	(1,169)		
11-Nov	1,038.38	82.81	59,763	(1,168)		
11-Dec	1,036.38	82.84	59,668	(1,173)		
11-4Q			59,763		61,800	(1,100)
12-Jan	1,034.30	82.87	59,573	(1,186)		
12-Feb	1,031.86	82.91	59,461	(1,189)		
12-Mar	1,028.92	82.95	59,320	(1,166)		
12-1Q			59,452		61,500	(1,100)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

〔ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント〕

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は下落することが想定され、為替通関レートも円高が進んでおり、MOF 評価値は値を下げるが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 700 円安の 6 万 0800 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	107.12	(2.54)
	JUN	107.69	(2.53)
ICE / BRENT	JUN	121.61	(1.84)
	JUL	121.30	(1.82)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	325.28	(3.64)
NYMEX / Heating Oil	MAY	318.28	(4.14)
ICE / Gas OIL	MAY	1,004.75	(19.75)

[マーケットコメント]

週明け 18 日の原油相場は、ロンドン市場、NY 市場ともに反落。需給逼迫感の後退や米長期格付け見通しの引き下げなどを背景に売りが先行し、WTI 期近 5 月限は 4 営業日ぶりの下落となった。

サウジアラビアのヌアイミ石油鉱物資源相は 17 日、2 月の同国の産油量は日量 912 万 5100 バレルで、3 月は同 829 万 2100 バレルであったことを明らかにした。日量 80 万バレルを超える減産実施の理由として、世界の原油市場は供給過剰であるとの認識を示している。また、中国人民銀行は同日、インフレ抑制のために預金準備率を引き上げることを発表した。引き上げは今年 4 度目で、昨年 10 月以降で 7 度目となる。これらを受け、需要増加に伴い需給が引き締まるとの見方が後退し、売りに繋がった格好。さらに、米格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)が、米国債の長期格付け見通しを引き下げたことで、リスク回避の流れが強まるとの見方が浮上し、利益確定の売りを進める動きに拍車がかかった。納会を控えていることもあり、急速に調整が進む格好となり、大幅に値を崩す展開となった。WTI 期近 5 月限は、一時 106.54 ドルまで値を崩す場面も見られるなど終始軟調であった。

クウェートのアハマド石油相は 18 日、震災に見舞われた日本に対して、同国政府が 500 万バレル(約 450 億円相当)の原油や石油製品の無償提供を決めたことを明らかにした。無償提供について同相は、日本との連帯を示すものであるとし、サバハ首長の命に基づいて閣議決定したと述べている。日本の原油輸入量は日量約 400 万バレルであることから、今回の提供分はそれを大きく上回る。

トピックス

「マンスリー・マーケットレビュー = スチレンモノマー/ポリスチレン」

スチレンモノマー(SM)市況は、需給緩和見通しを背景に売り先行の流れを継続し、一時 FOB KOREA1400 ドルを割り込んだ。その後は原料ベンゼン市況の上昇に連れ 1450 ドル水準まで値を戻している。ポリスチレン(PS)市況は、C&F FE ASIA1500 ドルを上抜いた後は上値重く推移したが、足元では小幅に値位置を切り上げている。

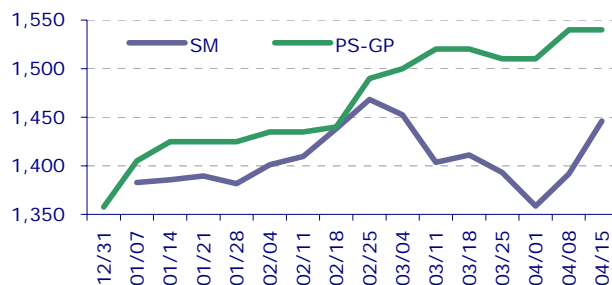
SM 市況は急反発。2 月下旬以降の下落基調を継続し、4 月初旬には 1350 ドル水準まで値を崩した。震災による輪番停電に伴い川下の製品工場が稼働を落としたことで、日本の需要が落ち込むとの見方が広がった。また、中国の建築基準が強化されたことで、建築材料として使用される EPS の基準がグレードアップし、従来の汎用 EPS 需要が大きく減少したことや、マージン悪化から ABS 需要も減少したことで、中国を中心に SM 需要が落ち込んだ。北東アジアの SM 需給バランスは供給過剰の状態にあったが、引き合い旺盛なインドの SM 価格に割高感があることで、インドへの玉の流出が進み、供給過剰感が後退した。また、シンガポールのシェルと BASF の合併であるエルバ・イースタンが、SM/PO プラント(生産能力=55 万トン/年)について不可抗力を宣言したこともあり、これまでとは一転して需給引き締めへの警戒感が強まった。さらに EPS の規制が緩和されたこともサポート要因となり、1350 ドル水準で底打ち後、急速に値を戻す展開となっている。需給改善により足元の基調は上向きにあるが、インフレ抑制に向けて中国が利上げに動いたこともあり、中国要因については予断を許さない状況にある。下げ基調への転換点となった 1400 ドル台後半を上抜けるか否かがポイントとなる。

一方のポリスチレン(PS)市況はジリ高。3 月初旬に 1500 ドルを上抜いた後は、底堅さはあるものの上値も重い商状が続いている。原料 SM 市況が下落したことで、マージン良化からの引き合い増が見込まれたが、一方でエンドユーザーは先安期待から購買延期の動きを強めるなど、購買意欲の低迷が上値を圧迫した。実需で必要な以外の購買を手控えると同時に、中国政府のインフレ抑制への動きを懸念し、キャッシュ化を進める動きも上値を抑制した格好である。徐々に上値が重くなり、小幅ながら値を下げる動きとなっていたが、中国の建築資材向けの EPS 規制が緩和されることが明らかになると、EPS 需要に対する楽観の見方が PS 市況全般の買いに繋がり、買い優勢の地合いとなった。原料 SM 市況も上昇したことで、先安観から購買を手控えていたユーザーからの買いも入り、小確りとした動きに転じている。ただ、上値を積極的に買い進むだけのブル要因はなく、定修明けに伴う供給増加が見込まれるだけに、下振れリスクが高い点には注意が必要である。

「酢酸ビニルモノマーなど値上げへ = 日本合成化学」

日本合成化学工業は 15 日、酢酸ビニルモノマー、酢酸エチル、酢酸ブチルの価格について値上げすることを明らかにした。価格改定幅および実施時期は、酢酸ビニルモノマーがプラス 10 円/kg、酢酸エチルがプラス 15 円/kg で 5 月 1 日出荷分より、酢酸ブチルがプラス 15 円/kg で 4 月 1 日出荷分より。ナフサをはじめとする原燃料価格の高騰により採算悪化が見込まれることから、値上げを実施することにした。

SM/FOB KOREA & PS/C&F FE ASIA(ドル/MT)



Daily Market Report

「台湾で表面保護フィルムの現地生産進出へ = 東レフィルム加工」

東レフィルム加工(TAF)は18日、台湾に表面保護フィルムの製造・販売会社を設立することを明らかにした。新会社名は東麗尖端薄膜股份有限公司で、今年5月に設立する予定。資本金は35億円で、東レフィルム加工が70%、東レが30%出資する。台湾高雄市の南部サイエンスパーク高雄園區に1003工場を新設し、ポリエチレンやポリプロピレン系フィルムを製造販売する。新工場は2013年1月からの稼働開始を予定し、同年夏までに生産能力を1万7000トン/年に順次拡大する計画。東レグループ・フィルム事業にとって、初めての台湾事業進出になる。なお、TAFは東レ94.41%出資からなる。

「内需中心から輸出中心へ事業構造が転換 = SKグループ」

韓国石油化学大手SKケミカルなどを擁すSKグループは17日、製造分野の傘下企業が四半期ベースで過去最高の輸出額を記録したことを明らかにした。速報値ベースで発表された第1四半期の輸出額は8兆9700億ウォンに達し、これまでの内需中心から輸出中心へと転換していることが示された。石油製品と付加価値の高い化学製品輸出が好調で、通年の輸出額は40兆ウォンに達するとみられている。製造業分野の同四半期の売上高は14兆5400億ウォンであり、このうち6割強が輸出によるものであった。同グループの製造業分野はSKケミカルのほか、SKエナジー、SK総合化学、SKイノベーション、SKルブリカンツ、SKCなど。

「米国でオレフィン生産能力を拡張すべく投資する計画 = フォルモサ・プラスチック」

台湾石油化学大手フォルモサ・プラスチックは、米国の石油化学プラントの能力拡張のため21億ドルを投資する予定であるという。より豊富でより安価である米国の天然ガス資源を使用することを目的とし、米国政府の承認が下りるようであれば2014年後半までの完工を計画している。計画では、テキサス州ポイント・コンフォート工場のエチレン生産能力を28%増強し、207万トン/年へと拡張する。また、プロピレン生産能力を54%増の114万トン/年へと増強する。

「2月の韓国合成ゴム輸出」

韓国の2011年2月の合成ゴム輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出TOP3	
				国	数量 (mt) / FOB KOREA
SBRラテックス・XSBRラテックス	6,700	7,388,969	1,103	中国	5,177 / 1,086
前月比	1	472,953	70	パキスタン	368 / 1,125
前年同月比	2,422	2,760,222	21	アラブ首長国連邦	380 / 1,061
SBR・XSBR	44,874	126,117,547	2,811	中国	9,575 / 2,823
前月比	▼340	7,141,489	179	インド	7,949 / 2,963
前年同月比	2,345	41,719,426	826	インドネシア	4,191 / 2,569
BR	24,893	87,456,211	3,513	中国	7,682 / 3,701
前月比	2,442	12,423,793	171	インドネシア	3,641 / 3,451
前年同月比	6,805	44,850,783	1,158	ベトナム	2,279 / 3,825
NBRラテックス	3,900	5,382,402	1,380	マレーシア	3,137 / 1,389
前月比	▼4,708	▼6,186,823	36	中国	758 / 1,302
前年同月比	▼3,520	▼3,098,591	237	インド	4 / 8,889
NBR	9,221	29,178,092	3,164	中国	3,290 / 3,146
前月比	▼39	1,286,581	152	米国	1,304 / 3,108
前年同月比	2,858	13,922,311	767	インド	1,076 / 3,201
EPDM	5,147	17,190,640	3,340	中国	1,889 / 3,428
前月比	▼1,585	▼5,009,250	42	日本	710 / 3,122
前年同月比	▼269	3,544,991	820	インド	575 / 3,504

(出所:韓国貿易協会)